もしもガイアメモリが一回使用するごとに電池を交換しなければいけなかったら

世界の抹消者

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

なんとなく思い付いた一発ネタ。

続かないよ！

目　次

もしもガイアメモリが一回使用するごとに電池を交換しなければいけなかったら ―――――――――――――― 1

もしもガイアメモリが一回使用するごとに電池を交換しなければいけなかったら

ここは風の町、風都。
鳴海探偵事務所の探偵、左翔太郎とその相棒フィリップの２人は仮面ライダーＷとして町を脅かすドーパントと戦っていた。
「チッ！コイツ随分とパワフルだな！」
『バイソンと言うだけあってパワーは向こうの方が上だ。翔太郎、ヒートメタルにチェンジだ！』
「えっ、……え～…」
『どうしたんだい翔太郎？』
「なあフィリップ、いつも思うんだが…」
『なんだい？』

「なんでこれ１回使う度に電池交換しなきゃいけねぇんだよ!?」
『え、その事かい？』
「逆にそれしかねえよ！なんで仮面ライダーが戦いに行く度に電池とプラスドライバーを持参するんだよ!?」
『何を言ってるんだ翔太郎。それほどの強大な力がたった電池２つで使用出来るんだよ？お得じゃないか』
「お前の言う事も一理あるけどさぁ…」
「ブモォォォォォ！」
『翔太郎！そんな話をしてる場合じゃない！早くメモリをヒートメタルに変えるんだ！』
「ああもう分かったよ！」
【ＨＥＡＴ】
【ＭＥＴＡＬ】

【ＨＥＡＴ　ＭＥＴＡＬ】
Ｗの姿が緑と黒から赤と銀に変わり、背中にメタルシャフトが出現する。
バイソンドーパントが突進してくるが、メタルシャフトで受け止める。
「オラ！」
「ブモ!?」
「おりゃぁぁぁぁぁ！」
「ブモォォォ！」
そのままメタルシャフトを何度もバイソンドーパントに打ち付ける、が…
「ブモォォォォォォォォ！」
「うお!?」
「ブモォォォォォ！」
「うわぁ！」
バイソンドーパントがメタルシャフトを弾き飛ばし、Ｗを突き飛ばす。
「くっ、やべえな」
『翔太郎、距離をとったままルナトリガーで射撃だ！』
「え、いやもういいわ。分かった」
【ＬＵＮＡ】
【ＴＲＩＧＧＥＲ】
【ＬＵＮＡ　ＴＲＩＧＧＥＲ】
Ｗの身体が黄色と青に変わり、手元にトリガーマグナムが出現する。
「これでもくらえ！」
「ブモォ!?」
連続でトリガーの弾をくらい怯むバイソンドーパント。
「よし、メモリブレイクだ」
『翔太郎、トリガーメモリの電池を入れ替えるんだ』
「おう。…なんかこれだけは慣れねえんだよなぁ」

Ｗが何処からともなくプラスドライバーを取り出し、ダブルドライバーからトリガーメモリを外しプラスドライバーでメモリのネジを取り始める。
「ブモォォォォォ！」
そんな事をしている間にバイソンドーパントがＷに突進してくる。
「危ね！」
「ブモォ！」
Ｗが攻撃できない事をいいことにＷに何度も突進を仕掛けてくる。
そして逃げてる間にトリガーメモリの電池交換が終わった。
「よし、これで決まりだ」
【ＴＲＩＧＧＥＲ　ＭＡＸＩＭＵＭ　ＤＲＩＶＥ】
トリガーマグナムにトリガーメモリを入れる。
『「トリガーフルバースト！」』
「ブモォォォォォ！」
Ｗのトリガーフルバーストが直撃し、バイソンドーパントは元の人間の姿に戻りバイソンメモリは砕かれていた。
「これで事件解決だな、相棒」

「さて、メモリの電池交換をするか」
「翔太郎、電池が無くなってしまった、買ってきてくれ」
「はいはい」

（戦闘に不便とか言ってたけど、何よりのデメリットは…）
「これください」
「はい、合計で９１３円です」
「電池代で俺の財布がガリガリ削れる事だよなぁ。トホホ…」